

(資料) 1. 人類とエネルギーの歴史

人類は火の発見により、森林から採取した木を燃やして熱源とし、18世紀後半に起こった産業革命以降は、天然ガス、石炭、石油を使い、20世紀半ばからは、これらに加えウランの核分裂時に発生する熱を原子力発電に利用するようになりました。こうしたエネルギー利用の歴史のなかで、とくに電気の歴史にスポットをあててみると以下のとおりです。

▶ 電気の歴史 (注) 太字は電気の歴史の中で節目となる出来事を示す。

1752年	フランクリンが雷が静電気であること を証明する	(アメリカ)	1934年	日本で最初の揚水式水力発電所が 運転開始	(長野)
1776年	平賀源内がエレキテルの復元に成功	(日本)	1938年	ハーンなどが原子核分裂を発見	(ドイツ)
1800年	ボルタが電池を発明する(電気の始まり)	(イタリア)	1940年	日本初の蛍光灯点灯	(法隆寺)
1831年	ファラデーが電磁誘導のしくみを解明する		1942年	エンリコ・フェルミ(イタリア)がシカゴ大学で世界初の原子炉完成	
1832年	ピクシーが直流発電機を発明	(フランス)	1951年	9電力会社発足	
1840年	アームストロングが水力発電機を発明	(イギリス)	1953年	テレビ放送始まる	(NHK)
1873年	アルテネックが交流発電機を発明	(ドイツ)	1954年	世界初の原子力発電所完成	(旧ソ連)
//	R・ダビットソンが実用電気自動車を開発	(イギリス)	//	ベル研究所がシリコン太陽電池を発明	(アメリカ)
1878年	工部大学校講堂(東京・虎ノ門)で開かれた電信中央局開局祝賀会において、日本で初めてアーク灯がともされる。(3月25日=電気記念日)		1960年	カラーテレビ放送始まる	
1879年	エジソンが白熱電球の実用化に成功	(アメリカ)	1963年	日本原子力研究所の動力試験炉(茨城県東海村)で日本初の原子力発電に成功	(10月26日=原子力の日)
1881年	アメリカで最初の火力発電が始まる	(アメリカ)	1964年	東海道新幹線開通	
1882年	東京の銀座にアーク灯の街灯が点灯		1966年	日本で原子力発電が始まる	(茨城)
1886年	はじめての電気事業会社(東京電燈)が開業		//	茨城県東海村の原子力発電所が完成	(茨城)
1887年	日本で石炭を使った火力発電が始まる	(東京)	1974年	国のサンシャイン計画がスタート	
1889年	大阪電燈会社が交流配電を開始		1977年	初めての高速増殖実験炉が稼働(茨城)	
1891年	ウエスチングハウス社が水力発電所を完成	(アメリカ)	1987年	当時、国内最大の燃料電池発電に成功	(兵庫)
//	世界初の風力発電	(デンマーク)	1991年	世界最大の燃料電池発電設備が完成	(千葉)
1892年	日本で最初の水力発電が始まる(京都)		1992年	日本初の商業用ウラン濃縮工場が完成	(青森)
1895年	日本初の路面電車開通	(京都)	1999年	ウラン加工施設(JCO)でわが国初の臨界事故	(茨城)
1911年	電気自動車の国産試作第1号車		2000年	BSデジタル放送始まる	
1912年	日本初の電気機関車	(横川～軽井沢)	2003年	東京、名古屋、大阪の3大都市圏で地上デジタル放送始まる	
1925年	ラジオ放送始まる	(NHK)	2004年	日本原燃(株)六ヶ所再処理工場でウラン試験開始	(青森)
			2009年	九州電力でブルサーマルの試験運用始まる	(佐賀)

(資料)2. 私たちの暮らしと電気

▶ 電気の必要性と停電の社会的影響

電気は、家庭、学校、工場、事務所ビルなど至るところで空気や水のように使われており、私たちの暮らしや産業活動にとって、欠かすことのできない大切なエネルギーです。

しかし、あって当然と思っていた電気が突然停電し、復旧の見通しがたたないような事態が発生すると、現代社会は、まさにパニック状態に陥り、都市機能は完全に麻痺してしまうでしょう。

2003年8月の夕方、ニューヨークを中心にアメリカ、カナダで発生した大停電(広範囲、長時間)は、完全復旧までに丸1日以上かかった大規模なもので、地下鉄やエレベーターに閉じ込められたり、信号機の停止で交通渋滞となったり、帰宅や出勤ができなかったり、治安の問題が生じるなど、約5,000万人の人々が影響を受けました。なお、同様の大停電は、同年の夏にイギリスやイタリアでも発生し、大きな社会問題となりました。

このニューヨーク大停電は、電力流通設備の容量不足、系統運用関係者の判断ミス、広域流通システムの不備などいくつかの原因が複雑に絡みあって生じたといわれています。

▶ 停電の少ない設備づくりと保守運用

日本の1軒あたりの年間停電回数と年間停電時間は、右表のとおりとなっており、この40年間で激減していることが分かります。これを可能にした主な対策は、以下のとおりです。

『停電を少なくする主な対策の例示』

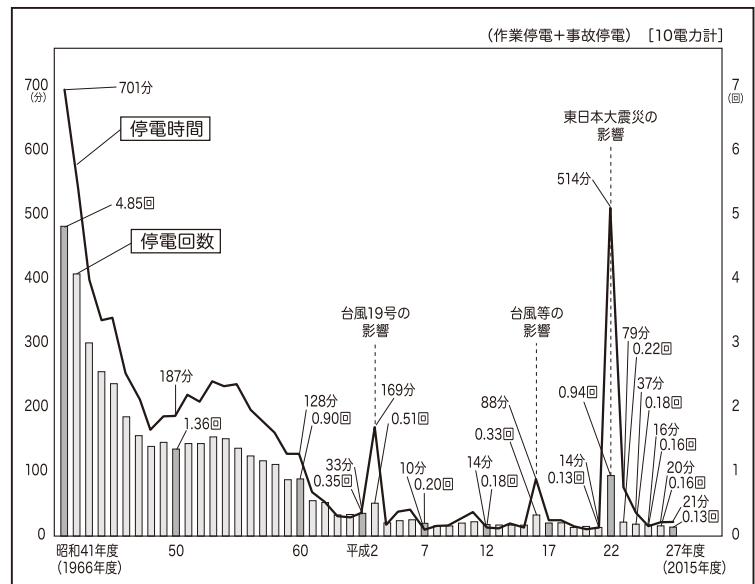
発電所～効率的な原子力発電をベースに、需要の急激な変動にも即応できる火力発電、揚水式水力発電などを組み合わせた電源のベストミックスの形成など
送電線～事故時には、当該送電線の負荷を他の線路に瞬時に切り替えられる送電ネットワークの形成、落雷時の電流を地中に流す「架空地線」や、断線を防ぐために送電線についた雪を落下させる「難着雪リング」の設置など

変電所～送電線の事故を検知して電流を遮断

し、他の送電線に波及させないシステムや高性能避雷器、絶縁強度に優れた機器の設置など

配電線～事故時には、不良個所を自動的に遮断し、他の健全な線路に瞬時に送電できる配電ネットワークの形成、雷による断線と碍子の破損を防止する放電クランプや避雷器内蔵機器の設置など

その他～刻々と変化する総需要に応じて各発電所の出力を集中制御するシステムの構築、全国の電力会社を連係送電線で結び、電気を融通し合う広域運営など



注:昭和63年度までは9電力計

出典:電気事業連合会

▶ 季節と時間で大きく変わる電気の使用量

電気は季節によって使用量が大きく変化します。これは使われる電気機器や使用時間が異なるためです。とくに夏は、エアコンや大型冷蔵庫などがフルに稼働します。一方冬は暖房に灯油やガスなど電気以外の熱源を使う家庭も少なくありません。このように季節によって使う電気機器や使用時間が異なることが影響しています。

また、1日の中でも企業や工場の稼働時間や昼休み時間、さらには気温の変化による冷暖房の使用などで電気の使用量は変化します。

▶ 最大電力

電気の使われ方は、季節、昼夜によって大きく変動します。この中で最も多く使われた電力を最大電力といいます。また、1年で最も多く使われた電力を年間最大電力といいます。電気はためることができないので、電力設備はこの最大電力に合わせて作らなければなりません。季節間、昼夜間の格差をなくすことが電力設備を有効に使うための課題です。

(資料)3. 発電所から家庭まで

▶ 電気を安定供給するために働いている人々の主な取り組み

【火力・原子力発電所】

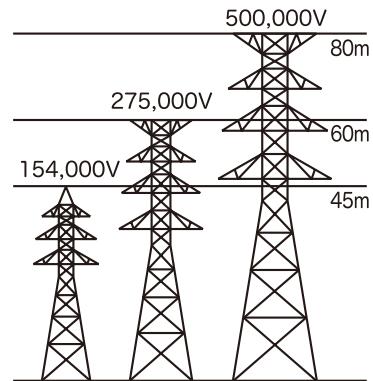
- 火力・原子力発電所では、運転員が施設内をパトロールしたり機械を定期的に分解・点検したりして電気を安定して送るために働いています。原子力発電所では、約1年に1回原子炉を止めて点検や検査を行い、国の検査を受け安全機能が維持できることを確認して運転しています。
- 夜も電気は使われているので、発電所では1日24時間運転しています。夜間も1か所の発電所で常に10~30人が働いています。

【水力発電所】

- 水力発電所では、水は貴重な資源です。その水を無駄にしないため、水力発電所の工事・点検は、渇水時期である秋から冬にかけて集中しています。また、水力発電所は、標高が高いところにあることが多く冬の寒さは厳しく、作業中、手足が寒さでしびれてしまうこともあります。作業も数日間にわたるため現地へは泊まり込みです。

【送電線】

- 非常に高い所での作業になります。鉄塔の高さは普通60m~80mですが、140mを超える(40階建てのビルに相当する)ものもあります。
- 点検は電気を止めて実施しますが、夜間は暗くて作業ができないので昼間に短い時間で作業を行います。
- 送電線の通り道は、道路のないような山奥にも張り巡らされているので、山間部での作業が多くなります。このような送電線の点検は、鉄塔まで近くの道路から山登りをして現地にたどり着いてからの作業となります。
- 冬場は、雪の中で点検をするため、スキーを履いて斜面を上り下りしなくてはいけないため大変厳しい作業となります。



【変電所】

- 変電所の機能の維持や事故の未然防止のため、月に数回のパトロールと数年に1回の遮断器の点検を行っています。点検は電気を止めて実施するため電気の使用量の多い平日の昼間は実施できません。このためおもに休日や夜間に集中的に点検を行っています。

【配電線】

- 電気が使える状態で仕事をするため、作業のときは感電しないよう安全防具をきちんとつけて作業をしますが、注意が必要です。最近は電気を止めないで工事(無停電工法)をするような工夫や、事故などに強い設備づくりを進め、その結果停電は大幅に減少しています。

▶ 直流と交流

電気の流れには、直流と交流の2種類がありますが、現在私たちのまわりで使われているのは、ほとんど交流です。乾電池は直流を発生するものの一例ですが、このほか電車や通信などに直流が使われています。交流は電気の相互誘導作用の原理を利用したトランスを使って、電圧を簡単に上げたり下げたりすることができるので、一般的家庭はもちろん、大小の工場やビルなど幅広い分野に使われています。

▶ 送電・変電・配電

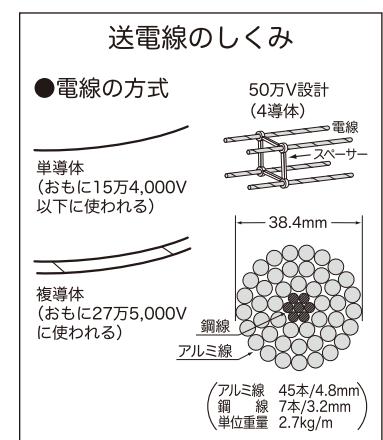
発電所でつくられた電気は、送電線によって家の近くまで高い電圧で運ばれてきます。電気を送る場合、電気の一部は送電線の抵抗などによって熱になり、空中に逃げてしまいます。この送電ロスは電圧が高いほど少ないので27万5,000Vや50万Vという高い電圧で送っています。発電所でつくられた電気は電圧を上げ、家の近くの変電所まで運ばれ、使われ方に応じた電圧に下げられ、届けられます。

この電圧をコントロールするのが変電所です。変電所はこのほか、電気の流れを集中し、分配する役割もあります。変電所は、変圧器(電圧を変換する機器)や遮断器(事故のときに自動的に電気の入り切りを行う装置)、断路器(変圧器や遮断器などを点検するときに電気をとめるスイッチ)などで構成されています。

電圧は、50万V~18万7,000V、15万4,000V~11万V、7万7,000V~6万6,000V、6,600V、さらには一般家庭や、小工場、商店などへ届けるために電柱に取りつけられている柱上変圧器によって、200Vあるいは100Vへと、数段階にわたって下げられます。

送電線と鉄塔は碍子で絶縁されていますが、碍子の連結個数は、電圧の違い、碍子の大きさ、海に近い場所かどうかなど、いろいろな条件で変わります。

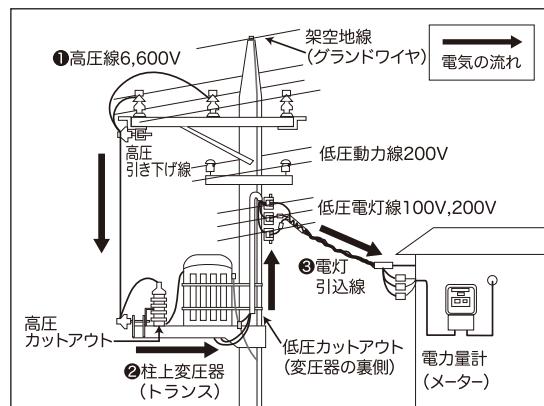
発電所から家まで、電気を送る役目を果たしている送電線、変電所、配電線を、電力の流通設備と呼んでいます。



※送電時の電圧や鉄塔の高さなどは電力会社によって異なります。

► 配電柱のしくみ

- 架空地線…配電線の避雷針の役目を果たし、雷などによる異常電流から配電線を守ります。
- 高圧線…6,600Vでビルや工場などへ電気を送るための配電線です。
- 柱上変圧器…6,600Vの高圧線の電圧を200Vあるいは100Vへ下げる役目をしています。
- 低圧電灯線…200V、100Vでおもに家庭に電気を送るための配電線です。
- 電灯引込線…配電線から分かれて各家庭と直接つながっています。



► 分電盤のしくみ

分電盤は、家庭で使う電気をコントロールする大切な役目を果たします。

●アンペアブレーカー(電力会社との契約用ブレーカー)

規定容量を超える電気が流れると、自動的にスイッチが切れます。関西、中国、四国、沖縄の各電力会社のサービスエリア内では契約の制度上、取り付けてありません。

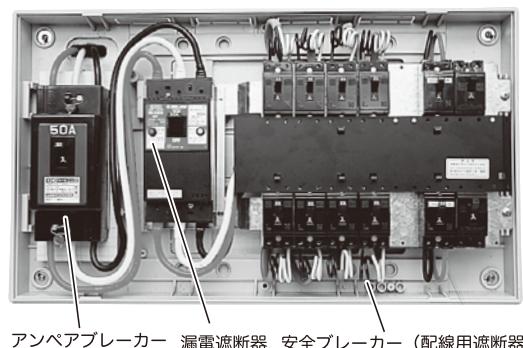
●漏電遮断器

家の中のどこかで漏電があると、この装置が働いて瞬時に電気を止めます。

●安全ブレーカー(配線用遮断器)

1つの回路に1つの配線用遮断器がついています。回路にブレーカー容量を超える電気が流れたり、回路に故障が起きて大きな電気が流れると、この遮断器が働いて、その回路に流れる電気を止めます。

■ 分電盤のカバーを開けたところ



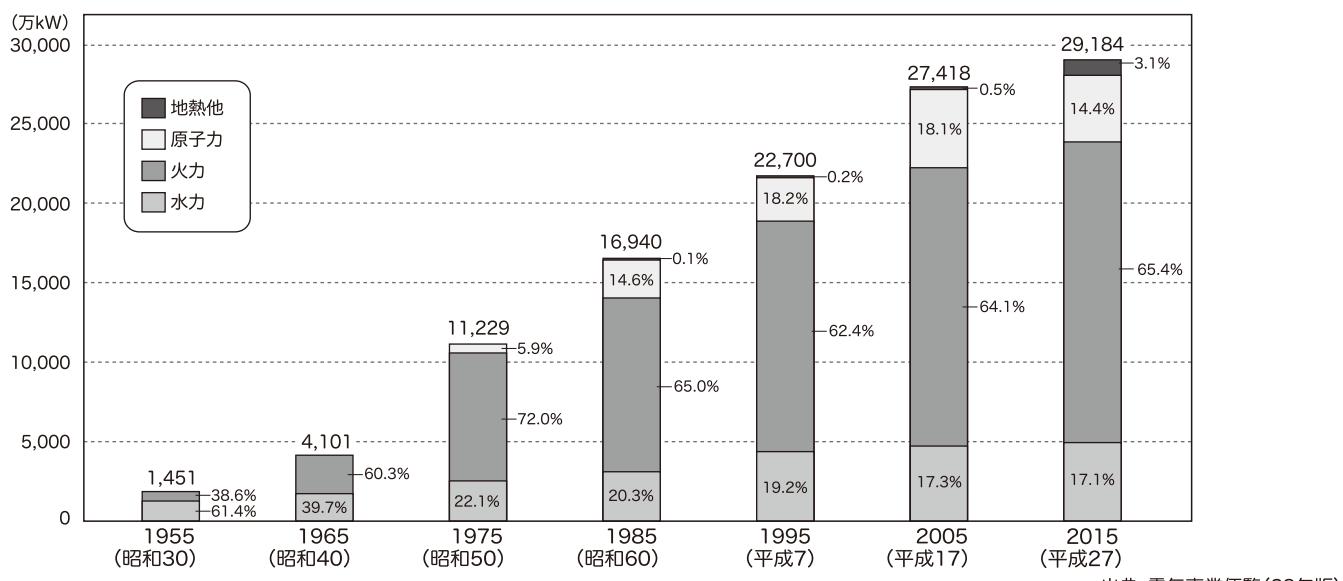
► 東日本、西日本のHz(ヘルツ)のちがい

日本には発電機が明治時代に輸入されました。当初、関東にはドイツから50Hzの発電機が、関西にはアメリカから60Hzの発電機が輸入されたことから、東日本と西日本とで異なる周波数(Hz)となり今日に至っています。電気製品には周波数が異なると使えないものと、どちらでも使えるものがあります。50/60Hzの表示がある電気製品は全国どの地域でも使えます。50Hzあるいは60Hzと表示してあるものは、部品の交換が必要です(おもにモーターを使っている電気製品類)。

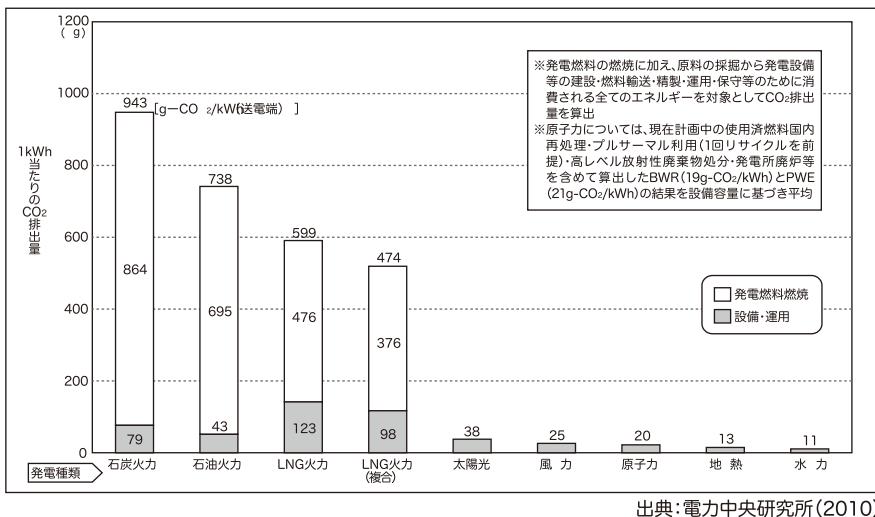
周波数の違う電気製品をそのまま使うと正常に動かないばかりか故障してしまうこともあります。ただし電熱・電波関係の電気製品は周波数が異なっても影響しません。

(資料)4. 発電所の種類としくみ

► 発電方式別の最大出力構成比(自家用を含む)



▶ 発電方式別二酸化炭素排出量



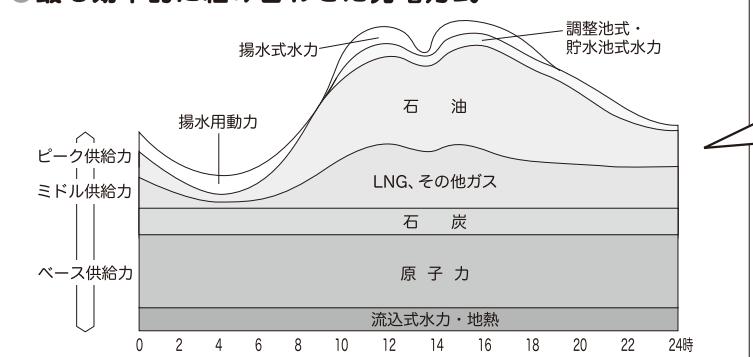
1kWhの電気を発電する時の二酸化炭素の排出量を、化石燃料の燃焼によって発生する量だけでなく、発電所、燃料の採掘設備、輸送設備、精製設備など発電に係わる全ての設備の建設や運用に消費されるエネルギーまでを含めて電源別に比較してみると、自然エネルギーを利用した発電を除けば、原子力がトータルシステムとして、地球温暖化の抑制に最も優れた電源であることがわかります。

■ (資料)5. 電気をつくる資源

▶ 発電方式の組み合わせ

エネルギー資源の乏しい日本では、1973年の第1次オイルショック以降、燃料確保の安定性、経済性、環境への影響、運転特性などを考えながら脱石油をめざして、火力(LNG、石炭、石油)、原子力、水力、地熱などをバランスよく組み合わせてきました。これを発電方式(電源)の「ベストミックス」と呼んでいます。

●最も効率的に組み合わせた発電方式



出典:図表で語るエネルギーの基礎2008 - 2009 電気事業連合会

- 揚水式水力…電力供給に余裕のある時間帯に水を汲み上げ、昼間帯にその水を利用して発電。発電出力の調整が容易で、急激な電力需要の変化に対する即応性に優れている。ピーク供給力として活用。
- 調整池式・貯水池式水力…河川の流量を調整池、貯水池で調整し発電。電力需要の変化に容易に対応できる。ピーク供給力として活用。
- 石油火力…燃料単価が高く、国際情勢などにより燃料価格が変動しやすい。ピーク供給力として活用。
- LNG、LPG、その他ガス火力…燃料単価は、石油火力に比べて安いが、石炭と比べると割高である。電力需要の日間変化に応じた発電調整を行うミドル供給力として活用。
- 石炭火力…燃料単価は他の火力に比べると安い。夜間帯の軽負担時には出力調整を行うことがあるが、主にベース供給力として活用。
- 原子力…火力に比べて燃料単価が安く、燃料価格が安定している。ベース供給力として活用。
- 流れ込み式水力…河川流量をそのまま利用して発電。電力需要への変化に対応できないため、ベース供給力として活用。

▶ 1次エネルギーの国内供給量と発電用消費量(2015年度速報値)

1.国内供給量

(単位: PJ)

	石油	石炭	天然ガス	原子力	水力・地熱他	計
輸入	9,337	5,156	4,551	0	0	19,044
輸出	-1,251	-23	0	0	0	-1,274
国内産出	21	0	111	79	1,673	1,884
在庫	-15	0	144	0	0	-129
国内供給計	8,092	5,133	4,806	79	1,673	19,783
率(%)	40.9	25.9	24.3	0.4	8.5	100.0

2.発電用消費量

(単位: PJ)

	石油	石炭	天然ガス	原子力	水力・地熱他	計
発電	959	2,987	2,957	79	1,259	8,241
電力化率(%)	4.8	15.1	14.9	0.4	6.4	41.7

電力化率(%)は各資源別国内供給量に占める割合※1PJ (=10¹⁵J)は、原油約23,885トンの熱量に相当(PJ:ペタジュール)

▶ 日本の発電に使われるエネルギー資源の変化(電源別発電量)

年度	原子力	石油	石炭	天然ガス	水力	その他	計
1965	0(0)	506(31.0)	431(26.4)	2(0.1)	691(42.4)	0(0)	1,630(100)
1975	251(6.5)	2,482(64.0)	153(3.9)	204(5.3)	785(20.3)	1(0)	3,876(100)
1980	820(16.9)	2,210(45.6)	219(4.5)	747(15.4)	845(17.4)	9(0.2)	4,850(100)
1985	1,590(27.2)	1,592(27.3)	572(9.8)	1,267(21.7)	806(13.8)	13(0.2)	5,840(100)
1990	2,014(27.3)	2,109(28.6)	718(9.7)	1,639(22.2)	881(11.9)	15(0.2)	7,376(100)
1995	2,911(34.0)	1,661(19.4)	1,171(13.7)	1,918(22.4)	854(10.0)	42(0.5)	8,557(100)
2000	3,219(34.3)	1,005(10.7)	1,732(18.4)	2,479(26.4)	904(9.6)	57(0.6)	9,396(100)
2005	3,048(30.8)	1,072(10.8)	2,529(25.6)	2,339(23.7)	813(8.2)	88(0.9)	9,889(100)
2010	2,882(28.6)	753(7.5)	2,511(25.0)	2,945(29.3)	858(8.5)	115(1.1)	10,064(100)
2013	93(1.0)	1,398(14.9)	2,845(30.3)	4,057(43.2)	800(8.5)	204(2.2)	9,397(100)
2014	0(0)	963(10.6)	2,824(31.0)	4,200(46.2)	818(9.0)	295(3.2)	9,101(100)
2015	94(1.1)	799(9.0)	2,797(31.6)	3,893(44.0)	853(9.6)	414(4.7)	8,850(100)

日本の発電は、水力発電を中心でしたが、豊富で安い石油の出現から、1970～75年は、石油による火力発電が60%以上を占めてました。オイルショック(1973年、1979年)以降に、石油に代わって原子力、石炭、LNGなどの導入が進みました。

▶ (資料)6. 主なエネルギー資源の輸入先

日本のエネルギー資源は乏しく、大部分を諸外国からの輸入に依存しています。石油と石炭と天然ガスの3つの資源で日本の総供給量の約94%を占めていますが、この輸入依存度は約99%です。水力・地熱等は100%の国産エネルギーになりますが、総供給量の約6%にすぎません。

1973年のオイルショック以降、エネルギー資源の輸入にあたっては、燃料の多様化をはかり脱石油化をすすめるとともに、安定して輸入するため輸入先を分散するなどの努力をしています。

しかし、現在でも全エネルギーの約45%を石油に依存しており、その約83%を中東地域に依存しているなど、他の先進諸国と比べて、脆弱なエネルギー供給構造となっています。国産エネルギーを増やしていくことは、日本にとって重要な課題といえます。

▶ 日本の石油・石炭・LNG(液化天然ガス)・ウランの輸入先

○石油(2014年度) (単位:万kL・%)

国名	数量	構成比
中東	サウジアラビア	6,352 32.5
	アラブ首長国連邦	4,869 24.9
	カタール	1,864 9.6
	クウェート	1,341 6.9
	イラン	1,017 5.2
	イラク	256 1.3
	その他	449 2.3
小計	16,148	82.7
他	ロシア	1,632 8.4
	東南アジア	805 4.1
	アフリカ	301 1.5
	その他	632 3.2
	小計	3,370 17.3
合計	19,517	100.0

出典:経済産業省「資源・エネルギー統計年報」

○石炭(2014年度) (単位:万t・%)

国名	数量	構成比
中東	オーストラリア	11,892 63.4
	インドネシア	3,518 18.7
	ロシア	1,502 8.0
	カナダ	913 4.9
	アメリカ	621 3.3
	中国	184 1.0
	その他	138 0.8
合計	18,769	100.0

出典:財務省「日本貿易統計」

○ウラン(2013年) (単位:s.t.*)

国名	数量
カナダ	
イギリス	
南アフリカ	
オーストラリア	
フランス	
アメリカ	
その他	約456,900

*s.t.=ショート・トン(米トン)、

1ショート・トンは2000ポンド(約907.2キログラム)

出典:「原子力ポケットブック2014」

○LNG(2014年度) (単位:万t・%)

国名	数量	構成比
中東	オーストラリア	1,834 20.6
	カタール	1,650 18.5
	マレーシア	1,532 17.2
	ロシア	851 9.6
	アラブ首長国連邦	570 6.4
	インドネシア	518 5.8
	ナイジェリア	511 5.7
ブルネイ	443	5.0
パプアニューギニア	340	3.8
オマーン	300	3.4
赤道ギニア	66	1.0
アルジェリア	56	1.0
その他	236	3.0
合計	8,907	100.0

出典:財務省「日本貿易統計」

(資料)7. 期待される新エネルギー

太陽光・風力・地熱や燃料電池による発電は、大気汚染、環境への影響が少ないクリーンなエネルギーです。反面、太陽光・風力発電は天候などに左右され、常に安定した電気を発電することが難しいという面があります。また、現在のところコスト的にみてかなり割高なため、普及させるためには、さらにコストを下げる研究が必要です。その他、波の力や潮の干満時の潮流、海水の温度差などを利用する波力・温度差発電などが研究されています。さらに近年、リサイクルエネルギーの1つとして廃棄物発電も注目されています。

► エネルギーのベストミックス

天然資源に乏しいわが国は、エネルギーの約92.9%を海外に依存しています。

また、発展途上国におけるエネルギー需要の増大が予想されることを考えれば、石油代替エネルギーの開発・導入を一層推進し、引き続き石油依存度を低減することが必要です。

さらに、CO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量を最大限抑制するためには、非化石エネルギーによる供給を可能な限り高めることが必要です。

これらの要素を考慮し、各エネルギー源の供給安定性、経済性、環境負荷、導入可能性等についての総合評価をふまえたエネルギーのベストミックスを構築する必要があります。

► 新エネルギーのメリット・デメリット

	太陽光発電	風力発電	廃棄物発電	燃料電池発電
メリット	<ul style="list-style-type: none">●枯渢する心配がない●発電時にCO₂などを出さない●需要地に近いため送電ロスがない●需要の多い昼間に発電	<ul style="list-style-type: none">●枯渢する心配がない●発電時にCO₂などを出さない	<ul style="list-style-type: none">●発電に伴う追加的なCO₂の発生がない●新エネルギーの中では連続的に得られる安定電源	<ul style="list-style-type: none">●排熱利用を組み合わせれば総合熱効率が高い●硫黄酸化物は全く発生せず、窒素酸化物もほとんど発生しない●騒音が少ない●需要地に自由に設置できる
デメリット	<ul style="list-style-type: none">●エネルギー密度(注1)が低く、火力・原子力と同じ電力量を得ようとすると広大な面積が必要●夜間は発電できず、さらに雨、曇りの日は発電出力が低下し不安定●設備にかかるコストが高い	<ul style="list-style-type: none">●エネルギー密度が低く、火力・原子力と同じ電力量を得ようとすると広大な面積が必要●風向き・風速に時間的・季節的変動があり、発電が不安定●風車の回転時に騒音が発生●風況の良い地点が偏在●設備にかかるコストが高い	<ul style="list-style-type: none">●発電効率が低い●ダイオキシンの排出抑制対策や焼却灰の減量化などの更なる環境負荷低減が必要	<ul style="list-style-type: none">●化石燃料を用いて水素を作る場合はCO₂が発生する●水素を供給するしくみが整っていない●電池の耐久性とシステムとしての信頼性が低い●設備にかかるコストが高い

注1:エネルギー密度:単位面積あたりでどれくらい発電できるかを表す数値

出典:総合資源エネルギー調査会・新エネルギー部会報告書(2009年8月)他

► 研究開発中のさまざまな新エネルギー

海洋エネルギーの利用	波力発電	押し寄せる波の上下運動で空気タービンを回して発電する方法。他に水平振動を利用する振り子式もある。航路標識ブイの電源として世界で1,000基以上が実用化されている。
	潮汐・潮流発電	潮の干満を利用した水力発電の一種。鳴門海峡や津軽海峡などで研究が進められている。
	海洋温度差発電	海面付近の暖かい海水と、深い所の冷たい海水との「温度の差」を利用して発電する方法。
振動発電		振動により振動面に発生する圧力を圧電素子を用いて電力に変換する発電方法。駅の改札など人通りの多い場所に設置して電力の一部を供給しようとする試みがある。
雪氷熱利用		冬に降り積もった雪や、冷たい外気でつくった氷を貯蔵して、その冷たい熱(冷熱エネルギー)を利用する方法。建物の冷房や農作物の冷蔵に使われている。

(資料)8. エネルギーの再生と有効活用

▶ 3R活動の行動

名称と意味		行動	(レジ袋の3Rの例)	優先度
Reduce リデュース 発生抑制	ごみも資源も もとから減らす	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみになりにくい商品や、壊れにくく長持ちする製品を買う。 ●包み紙など容器包装の少ないものを買う。 ●使い捨て商品はなるべく買わない。 ●食べ残しはしない。 ●買い物袋を持って行き、レジ袋を受け取らない。 	買い物袋を持って行き、レジ袋をもらわない。	↑ 高
Reuse リユース 再使用	くりかえし使う	<ul style="list-style-type: none"> ●牛乳瓶のようなリターナブル容器を使う。 ●詰め替えができる商品を使う。 ●使い終わった容器を別の入れ物に使う。 ●チラシの裏をメモ用紙に使う。 ●不要になったものは欲しい人に譲ったり、フリーマーケットやリサイクルショップに持って行く。 	もらったレジ袋をごみ袋にしたりして、繰り返し使う。	
Recycle リサイクル 再生利用	資源として 再び利用する	<ul style="list-style-type: none"> ●資源になるごみはきちんと分別して、回収に出す。 ●再生紙ノートなどのリサイクルされた商品を使う。 	資源として分別しリサイクルに出す。	↓ 低

環境省「3Rまなびあいブック」他をもとに作成 https://www.env.go.jp/recycle/yoki/b_2_book/index.html

3R活動を実践し定着させて循環型社会を実現するためには、一人ひとりが環境のことを考えた買い物をしたり生活を心がけることが大切です。そのためには「グリーンコンシューマー」などの考え方も必要です。

●3R活動推進フォーラム <http://3r-forum.jp/> ●グリーン購入ネットワーク <http://www.gpn.jp>

▶ 家電リサイクル法(特定家庭用機器再商品化法)によるリサイクル率(2015年度実績)

	エアコン	テレビ	冷蔵庫・冷凍庫	洗濯機・衣類乾燥機
リサイクル率(%)	93	ブラウン管式 73 液晶・プラズマ式 89	82	90

(注)リサイクル率(再商品化率)=再商品化重量÷再商品化等処理重量×100(%)

出典:(一財)家電製品協会

▶ パソコン3RによるPCリサイクル(資源有効利用促進法)

①家庭から廃棄された使用済パソコンの回収及び再資源化実績(2015年度)

	回収重量(t)	回収台数(台)	再資源化処理量(t)	資源再利用量(t)	資源再利用率(%)
デスクトップ型パソコン本体	822.6	82,942	776.8	577.1	74.3
ノートブック型パソコン	370.6	136,084	351.0	200.3	57.1
CRTディスプレイ装置	306.2	18,513	306.2	230.5	75.3
液晶ディスプレイ装置	995.1	105,729	898.5	657.3	73.2
計	2,494.5	343,268	2,332.5	1,665.2	

②法人(企業など)から廃棄された使用済パソコンの回収及び再資源化実績(2015年度)

	回収重量(t)	回収台数(台)	再資源化処理量(t)	資源再利用量(t)	資源再利用率(%)
デスクトップ型パソコン本体	928.3	87,705	652.1	544.4	83.5
ノートブック型パソコン	412.6	127,668	198.0	135.5	68.5
CRTディスプレイ装置	100.0	6,275	100.0	71.7	71.1
液晶ディスプレイ装置	425.5	74,232	320.6	248.1	77.4
計	1,866.4	295,880	1,270.7	999.1	

資源再利用率=資源再利用量÷再資源化処理量×100(%)

出典:(一社)パソコン3R推進協会

▶ 資源廃棄物リサイクル関連団体ホームページ

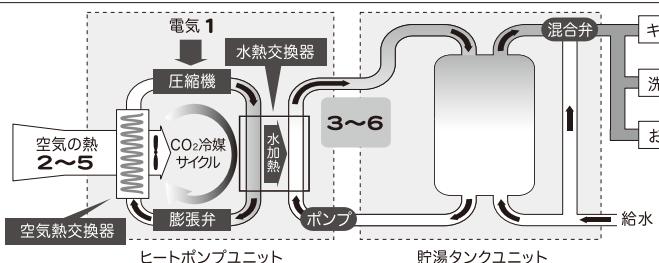
- | | |
|--|--|
| ●アルミ缶リサイクル協会 http://www.alumi-can.or.jp/ | ●(公財)日本容器包装リサイクル協会 http://www.jcptra.or.jp/ |
| ●スチール缶リサイクル協会 http://steelcan.jp/ | ●(一財)家電製品協会 http://www.aeha.or.jp/ |
| ●(公財)古紙再生促進センター http://www.prpc.or.jp/ | ●(一社)パソコン3R推進協会 http://pc3r.jp/ |

▶ ヒートポンプとエコキュート

空気の熱を利用する給湯器として、環境対策面(CO₂の削減)から最近注目されているヒートポンプの原理を使ったエコキュートは、空気の熱を熱交換器で冷媒に集め、これを圧縮機で圧縮してさらに高温にし、この熱を水に伝えてお湯を沸かすシステムです。この技術により、使用した電気エネルギーの3倍以上の熱エネルギーを得ることができ、CO₂の削減に役立ちます。このヒートポンプの技術はエアコンや冷蔵庫などにも使われています。

■ヒートポンプ(エコキュートの場合)

$$1(\text{の電気エネルギー}) + 2\sim 5(\text{の空気熱}) = 3\sim 6(\text{得られる給湯エネルギー})$$

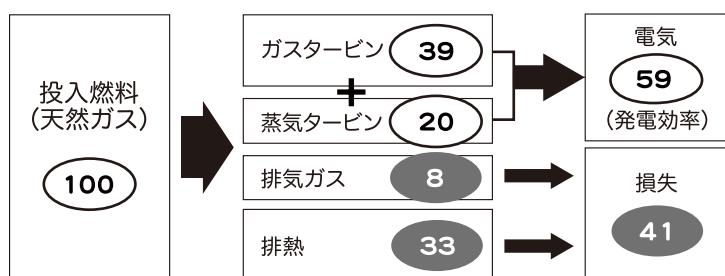


▶ 世界の最先端を行く日本の火力発電

火力発電所では、投入した燃料の熱エネルギーのうち電気エネルギーに変換される割合(熱効率=発電効率)が高いほど、多くの電気をつくることができます。コンバインドサイクル(CC:Combined Cycle)発電はガスタービン発電と蒸気タービン発電を組み合わせた発電方式で、高温でガスタービンを回し、残った熱を回収して蒸気タービンを回しています。2種類のタービンを組み合わせることで、熱エネルギーをより効率的に利用することができます。

1,100°C級CC発電では最大約47%に向上了。ガスタービンの入口ガス温度を1,300°Cへ高温化した改良型コンバインドサイクル(ACC:Advanced Combined Cycle)発電では、蒸気タービンにおいても蒸気条件を高温・高圧化し、あわせて再熱サイクルを適用することにより、最大約57%に向上了。ACC発電システムを基本に、ガスタービンの入口ガス温度をさらに高温化した1,500°C級MACC (More Advanced Combined Cycle) 発電は最大約59%、さらに、最新鋭の1,600°C級MACC II発電は約61%にまで熱効率を高めた高効率・大容量の発電方式です。高温にも耐えられるタービンの開発などのテクノロジーの進化が、高い効率化の実現を可能にしました。

【1,500°C級改良型MACC発電の熱効率】



（資料）9. 暮らしの省エネルギーと電気の安全

▶ これだけ減らせるCO₂(生徒用冊子21ページの算定方法)

行動	算定条件	計算式	CO ₂ 削減量
テレビを見る時間を1日1時間減らす	20インチ液晶テレビ(年間消費電力量15kWhの節約)	$15000(\text{Wh}) \times \text{電気のCO}_2\text{排出係数} 0.351\text{kg-CO}_2/\text{kWh} \div 365\text{日}$	1日あたり約14.4g
54Wの白熱電球を電球型蛍光ランプやLEDランプに取り替える(年間2000時間使用時)	12Wの電球型蛍光ランプに交換(年間消費電力量84kWhの節約)	$84000(\text{Wh}) \times \text{電気のCO}_2\text{排出係数} 0.351\text{kg-CO}_2/\text{kWh} \div 365\text{日}$	1日あたり約80.8g
	7.5Wの電球型LEDランプに交換(年間消費電力量93kWhの節約)	$93000(\text{Wh}) \times \text{電気のCO}_2\text{排出係数} 0.351\text{kg-CO}_2/\text{kWh} \div 365\text{日}$	1日あたり約89.4g
3kmを自動車でなく自転車にする	1ℓあたりの燃費を10kmとした場合	ガソリンの消費量($3\text{km} \div 10 = 0.3\ell$) × ガソリンのCO ₂ 排出係数2.32kg-CO ₂ /ℓ	1走行あたり696g
買い物をするときにレジ袋をもらわない	1枚あたりの重さが6gのレジ袋を1日に2枚貰わなかった場合	レジ袋1gを生産・焼却する際に排出されるCO ₂ の量(4g*) × 6g/枚 × 2枚 *1年間に生産・消費されるレジ袋の重さ(約15万トン)、レジ袋を生産・焼却する際に排出されるCO ₂ (約60.5万トン)。	1日あたり約48g

財省エネルギーセンター「家庭の省エネ大事典2010」、環境省・地球温暖化防止推進センター「身近な地球温暖化対策—家庭ができる10の取り組み」、「グリーンコンシューマーになる買い物ガイド」(小学館/グリーンコンシューマー全国ネットワーク)をもとに作成。牛乳パック換算本数は、1気圧0°C1モル(22.4L)のCO₂の重さ44gから容積換算した。